



厄介なヤエムグラを
ピタッと抑えられたよ。

宮城県柴田郡 長山 清市さん



平成18年に6名の生産者と1名の事務員で設立された「農事組合法人かながせ」。代表理事の長山さんは、「先の震災ではライフラインに多少支障は出たものの、圃場に大きな被害はありませんでした」と語ります。

同法人では大麦を61haのほか大豆を70ha、さらにはえだまめなどを栽培し、とりわけ大麦と大豆に関しては地域の生産量のほとんどを担っているといいます。そんな「かながせ」を、危機的な雑草被害が襲った平成21年。当時の様子を、長山さんはこのように語ります。

「この地域で従来から問題だったヤエムグラが、ついに大発生してしまったんだ。ヤエムグラが大量に発生すると麦穂にからまって倒してしまうから、コンバインで刈り取りができなくなる。生育不良を起こした麦だけじゃなく、実が成っている穂まで収穫できなくなってしまふんだ」。さらに、ヤエムグラの被害はそれにとどまらないといいます。「ヤエムグラの種子の大きさや重さがちょうど麦と同じくらいなので、農家にも選別が難しく、等級が下がってしまうこともあったよ」。目も当てられないほどの被害の大きさに、組合員全員が頭を抱えたのだとか。

同じ悪夢を繰り返してはいけなく、と日々感じていた長山さんが出会ったのがボクサーです。播種後に散布するだけで、難防除のヤエムグラを長く抑えるボクサーは、長山さんにとってまさに待望の除草剤でした。いつもお世話になっている宮城県大河原農業改良普及センターの滝澤さんから「播種後なるべく早く処理するのが効果的」という話を聞き、播種から2日後に全圃場の約半分にあたる30haに土壌処理されたとのこと。

「あれだけ悩まされたヤエムグラがピタッと出なかった。ボクサーを使わなかった圃場には例年と同じくらい発生していた。スズメノテppウもしっかり抑えられたよ」。他剤を散布した圃場と比較することで、その除草効果がさらに浮き彫りにされたといいます。さらに「残効が長いから追加防除の手間が省けて仕事がラクだね。なにより麦の雑草防除に手がかからないから、他の作物の適期作付に役立つ。いくつもの作物を栽培する法人には強い味方だよ」と目を細めます。トラックの廃タイヤを利用した「麦踏みローラー」を自作するなど、高品質な麦づくりに熱い情熱を傾ける長山さん。

「今年の秋は61haの全圃場にボクサーを使おうと思う。収量も品質も断然良かったからね！」地域の麦づくりを担う組合の代表として、今後もボクサーに大きな期待を寄せられています。



同組合の鈴木理事(中央)と
宮城県大河原農業改良普及センターの
滝澤さん(右)



シンジェンタ ジャパン株式会社

〒104-6021 東京都中央区晴海1-8-10 オフィスタワー-X 21階
http://www.syngenta.co.jp

農業をご使用の際は、ご購入先、または当社ウェブサイトなどで最新の登録内容をご確認ください。

®はシンジェンタ社の登録商標 TMはシンジェンタ社の商標

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●薬剤は小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器、空袋等は圃場などに放置せず適切に処理してください。

※2011年8月現在の情報です。